

平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 キダイ

学名 *Dentex hypselosomus*

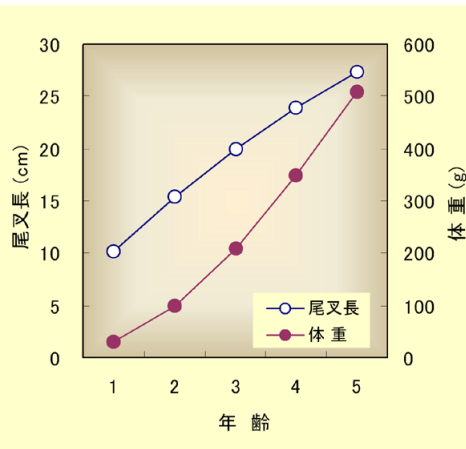
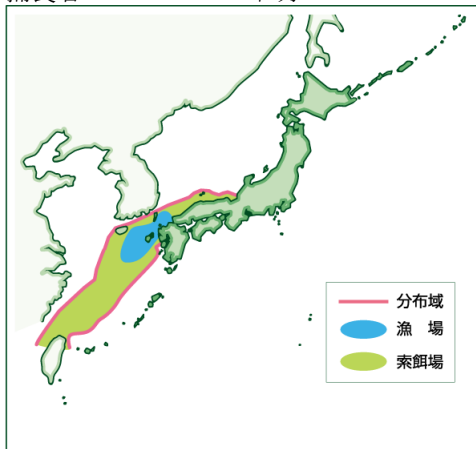
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8歳
成熟開始年齢: 2歳
産卵期・産卵場: 春季と秋季の年2回、分布域内(五島西沖～済州島、沖縄北西の大
陸棚縁辺、台湾北東の大陸棚縁辺、浙江、福建近海)
索餌期・索餌場: 大規模な回遊はなく、夏季は浅みに、冬季は深みにという深浅移動
を行う程度
食性: 主に甲殻類
捕食者: 不明

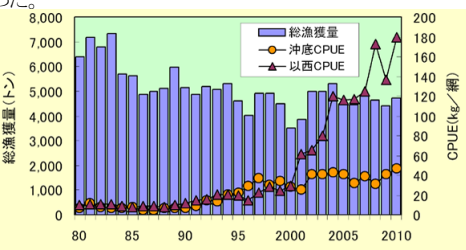
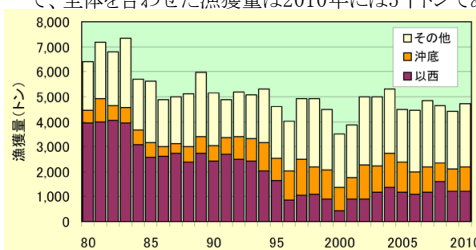


漁業の特徴

漁業の主体は沖合底びき網漁業、以西底びき網漁業、小型底びき網、延縄、釣りである。県別でみると、島根・山口・長崎の漁獲量が多い。かつては日本海西部～東シナ海南部に広く漁場が形成されていたが、現在は日本海西部海域～九州西岸が中心である。中国・韓国漁船によっても漁獲されているとみられるが、漁獲量は不明である。

漁獲の動向

2そうびき沖合底びき網漁業(以下、沖底2そう)および2そうびき以西底びき網漁業(以下、以西2そう)によるものが全体の漁獲量のおよそ5割を占める(2010年)。沖底2そうによる漁獲量は1994年以降は1千トン前後で安定している。以西2そうによる漁獲量は2001年からは1千トン前後で安定している。その他の漁業種類による漁獲量は2千トン前後で、全体を合わせた漁獲量は2010年には5千トンであった。



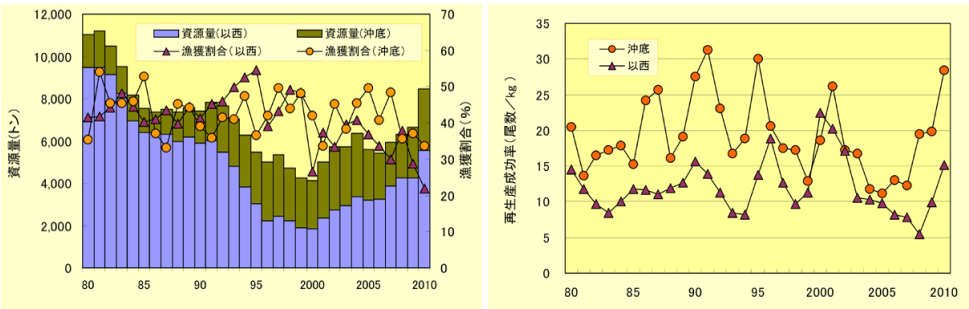
資源評価法

沖底2そう、以西2そうの漁獲対象資源について資源量推定を行った。漁獲量と漁獲物の生物測定結果から、それぞれの漁業種類毎に年齢別漁獲尾数を推定し、資源解析(コホート計算)を行った。コホート計算では、1～12月を1年として0～4歳以上の5年齢群について、沖底2そうでは資源密度指数を、以西2そうでは資源密度指数と調査船調査による現存量推定結果を用いて、資源動向が最もよく適合するように最近年のFを決定した。

資源状態

以西2そう漁獲対象資源については1980年代前半から減少傾向にあったが、2001年以降は増加傾向にあり、2010年は6千トンと計算された。漁獲割合は変動しながら減少している。沖底2そう漁獲対象資源については1980～1990年には1千～2千トンの資源量で推移していたが、その後増加し、1997年には3千トンに達した。その後変動しながら2千～3千トン前後で推移し、漁獲割合は2006年以降は変動しながら減少傾向にある。これ以外の漁業種類によるキダイ漁獲量も沖底2そうと同じく2002年以降2千～3千トンで安定している。





管理方策

以西2そう、沖底2そうを合わせた資源量は中位水準で、その他の漁業種類による漁獲量も安定している。設定された今後の加入量の条件(再生産成功率:以西2そう:10.1尾/kg、沖底2そう:13.1尾/kg)では、以西2そう、沖底2そうともに現在の漁獲圧(2010年のF)でも資源量はゆるやかに増加する。現在の漁獲圧で漁獲し、今後の経過を見ることが妥当であると考えられる。なお、ABCの算定にあたっては、沖底2そうと以西2そうは現在の漁獲圧で漁獲した場合の漁獲量、その他の漁業種類は2008～2010年の平均漁獲量を計算し、その合計をABClimit、不確実性を見込んだ漁獲量をABCtargetとした。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	59百トン	Fcurrent	—	—
ABCtarget	50百トン	0.8Fcurrent	—	—

- Fcurrentは2010年のF
- 漁業種類別に解析しているためF値と漁獲割合は記載していない

資源評価のまとめ

- 2そうびき沖合底びき網漁業および2そうびき以西底びき網漁業の漁獲対象資源量は概ね中位水準にあり、動向は増加である
- その他の漁業による漁獲量も、多少の増減はあるが2千トン前後で安定している

管理方策のまとめ

- 現在の漁獲圧を継続することが妥当である
- 東シナ海における資源管理には関係国間の協力が不可欠

執筆者: 依田真里

資源評価は毎年更新されます。